

授業科目名 <英訳>	遺伝カウンセリング実習 1 Genetic Counselling, Practice 1	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 小杉 眞司
---------------	--	-----------------	----------------

配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
----------	-----	-----	---	--------------	---------------	-----	-----	----------	----	----------	-----

【授業の概要・目的】

【I. コースの概要】

遺伝カウンセリングの現場に同席し、その現状を体験するとともに、予診の聴取（プレカウンセリング）、家系図の作成、電話フォローアップなどを実際のクライアントに対しておこなう。

担当者：小杉眞司・和田敬仁・玉置知子・三宅秀彦・山田重人・澤井英明・四本由郁・村上裕美・鳥嶋雅子

【II. 教育・学習方法】

実習（準備・プレカウンセリング・同席実習・症例記録作成・カンファレンスでの症例報告・討議・電話フォローアップ）。関連学会・セミナーに出席、積極的に参加し、レポートをまとめる。

1月 3月は、「遺伝カウンセラー業務実習」として遺伝カウンセリング電話予約対応などの認定遺伝カウンセラー業務の実際についても実習する。

【到達目標】

クライアントへの適切な接し方を体得する。予診の聴取、家系図の作成が適切に可能となる。症例の問題点について、担当医らと討議できる。症例をまとめ、医学的・心理社会的・倫理的問題について文献を検索し、最新情報を入手できる。カンファレンスで、症例を提示し、討論を行うことができる。関連する部局と適切な情報交換、連携が可能であり、チーム医療を実践できる。

【授業計画と内容】

【遺伝カウンセリング実習】

1年次の後半ころから遺伝カウンセリング実習を開始する。学生個人個人の知識・到達度や実習のavailabilityから判断して、実習の開始時期や頻度を決定する。2年間で60症例程度を経験する。ごく初期は同席のみであるが、できるだけ実際の遺伝カウンセリングに少しでも参加することが望まれる。そこで、予診や家系図作成などの初期インテーク（プレカウンセリング）を行う。個々のケースについて症例記録・ログブックを作成し、担当教員に確認の上、できるだけ早く（遅くとも1週間以内に）確定し、所定の場所に保存する。類型化シートも作成する。また、経験した症例をカンファレンスで発表し、討論する。1ケースあたり、（準備や検索を含めると）6時間程度が必要となる。家族性腫瘍、神経変性疾患、出生前診断・染色体異常、遺伝性難聴、眼科疾患、先天奇形、先天性代謝異常、その他、できるだけバラエティに富んだ疾患の症例の経験をすることにつとめる。

- ・ 京都大学医学部附属病院遺伝子診療部（耳鼻科遺伝難聴外来含む）：月 金（コース全員で交代）
- ・ 兵庫医科大学臨床遺伝部：火曜（1名）・高槻病院小児科・産婦人科（不定期）

遺伝カウンセリング後の電話フォローアップについては原則として遺伝カウンセラーコース院生が対応し、実質的なOJT(on the job training)、インターンシップを行う。

< 症例記録の書き方の注意：抜粋 >

- 1．ファイル名：カルテ番号＋短い疾患名＋受診日とする（例）999FAP120915
- 再診のときは、前回のものに追記したものに再診日と回数を記載。（例）999FAP1261013-2
- 2．本文のタイトルの前にカルテ番号を入れる。
- 3．クライアント氏名は記載しないが、診療施設の名称などは全て実名記載する。
- 4．時間（終了時間、所要時間）も入れる。
- 5．家系図はパワーポイントで、別ファイルに。ファイル名は、上記のワードファイルと同じ。

遺伝カウンセリング実習 1 (2)

【学会・研修会への参加】

より幅広い知識・経験を積むため、下記の学会・研修会等への参加は原則として2年間必修とする（経費はできるだけサポートする）。学会発表、セミナーでの積極的な活動が奨励される。下記以外の学会・セミナーについても遺伝カウンセリングに関係の深いものについては参加を推奨する、また、これらの機会を利用し積極的な人脈作りを行うべきである。また、患者会・サポートグループなどへ積極的に参加することが勧められる。適宜情報を提供する。

【履修要件】

遺伝カウンセラーコース限定必修（事前確定科目）1回生は「遺伝カウンセリング実習1」、2回生は「遺伝カウンセリング実習2」

【成績評価の方法・観点及び達成度】

実習への積極的な参加などを総合的に評価する。

【教科書】

実際のクライアントに接した経験ほど重要な資源はない。

【参考書等】

（参考書）

【授業外学習（予習・復習）等】

（その他（オフィスアワー等））

クライアントのいかなる情報についても守秘を徹底すること。遺伝カウンセリング内容についての会話は、部外者のいるところではしないこと、内容を記したノート類は、部外者の目にふれないようにすること。ノートの貸し借りは禁止。守秘できない場合は、退学処分とする。

【平成29年度の必須参加予定】（変更ある場合はその都度連絡します）

6/23(金)-25(日)日本遺伝カウンセリング学会（近畿大学）*

7/4(金)日本遺伝子診療学会（千葉三井ガーデンホテル）有志？

7/15(土)-17(日)遺伝カウンセリング研修会（京都大学）

8/4(金)-5(土)日本家族性腫瘍学会（札幌市）*

8/25(金)-27(日)家族性腫瘍セミナー（東京都）

9/1(金)-3(日)遺伝医学セミナー（千葉ガーデンホテル）

11/16(金)-19(日)日本人類遺伝学会* + 全国遺伝子医療部門連絡会議(神戸市)

1/6(土)-7(日)遺伝カウンセリングアドバンスセミナー(大阪)(1回生のみ)

2/17(土)-18(日)遺伝医学セミナー入門コース(名古屋)(1回生のみ)

（29年度入学者が2回生になった際の参加学会・研修会は上記と同一ではありません。）

経費補助を受けて学会・セミナー等へ参加した場合は、レポートを提出すること。レポートはA4用紙で参加日数枚数分を目安とし、速やかに提出すること(最大1ヶ月以内)。また、これらのレポートについては、報告書として冊子化されることがあることを了解すること。2回生は*のいずれかの学会で一度は研究発表をおこなうことが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	遺伝カウンセリング実習 2 Genetic Counselling, Practice 2	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 小杉 眞司
---------------	--	-----------------	----------------

配当 学年	専門職	単位数	4	開講年度・ 開講期	2017・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
----------	-----	-----	---	--------------	---------------	-----	-----	----------	----	----------	-----

[授業の概要・目的]

【I. コースの概要】

遺伝カウンセリングの現場に同席し、その現状を体験するとともに、予診の聴取（プレカウンセリング）、家系図の作成、電話フォローアップなどを実際のクライアントに対しておこなう。

担当者：小杉眞司・和田敬仁・玉置知子・三宅秀彦・山田重人・澤井英明・四本由郁・村上裕美・鳥嶋雅子

【II. 教育・学習方法】

実習（準備・プレカウンセリング・同席実習・症例記録作成・カンファレンスでの症例報告・討議・電話フォローアップ）。関連学会・セミナーに出席、積極的に参加し、レポートをまとめる。

1月 3月は、「遺伝カウンセラー業務実習」として遺伝カウンセリング電話予約対応などの認定遺伝カウンセラー業務の実際についても実習する。

[到達目標]

クライアントへの適切な接し方を体得する。予診の聴取、家系図の作成が適切に可能となる。症例の問題点について、担当医らと討議できる。症例をまとめ、医学的・心理社会的・倫理的問題について文献を検索し、最新情報を入手できる。カンファレンスで、症例を提示し、討論を行うことができる。関連する部局と適切な情報交換、連携が可能であり、チーム医療を実践できる。

[授業計画と内容]

【遺伝カウンセリング実習】

1年次の後半ころから遺伝カウンセリング実習を開始する。学生個人個人の知識・到達度や実習のavailabilityから判断して、実習の開始時期や頻度を決定する。2年間で60症例程度を経験する。ごく初期は同席のみであるが、できるだけ実際の遺伝カウンセリングに少しでも参加することが望まれる。そこで、予診や家系図作成などの初期インテーク（プレカウンセリング）を行う。個々のケースについて症例記録・ログブックを作成し、担当教員に確認の上、できるだけ早く（遅くとも1週間以内に）確定し、所定の場所に保存する。類型化シートも作成する。また、経験した症例をカンファレンスで発表し、討論する。1ケースあたり、（準備や検索を含めると）6時間程度が必要となる。家族性腫瘍、神経変性疾患、出生前診断・染色体異常、遺伝性難聴、眼科疾患、先天奇形、先天性代謝異常、その他、できるだけバラエティに富んだ疾患の症例の経験をするようにつとめる。

- ・京都大学医学部附属病院遺伝子診療部（耳鼻科遺伝難聴外来含む）：月 金（コース全員で交代）
- ・兵庫医科大学臨床遺伝部：火曜（1名）・高槻病院小児科・産婦人科（不定期）

遺伝カウンセリング後の電話フォローアップについては原則として遺伝カウンセラーコース院生が対応し、実質的なOJT(on the job training)、インターンシップを行う。

<症例記録の書き方の注意：抜粋>

- 1．ファイル名：カルテ番号＋短い疾患名＋受診日とする（例）999FAP120915
再診のときは、前回のものに追記したものに再診日と回数を記載。（例）999FAP1261013-2
- 2．本文のタイトルの前にカルテ番号を入れる。
- 3．クライアント氏名は記載しないが、診療施設の名称などは全て実名記載する。
- 4．時間（終了時間、所要時間）も入れる。
- 5．家系図はパワーポイントで、別ファイルに。ファイル名は、上記のワードファイルと同じ。

遺伝カウンセリング実習 2 (2)

【学会・研修会への参加】

より幅広い知識・経験を積むため、下記の学会・研修会等への参加は原則として2年間必修とする（経費はできるだけサポートする）。学会発表、セミナーでの積極的な活動が奨励される。下記以外の学会・セミナーについても遺伝カウンセリングに関係の深いものについては参加を推奨する、また、これらの機会を利用し積極的な人脈作りを行うべきである。また、患者会・サポートグループなどへ積極的に参加することが勧められる。適宜情報を提供する。

【履修要件】

遺伝カウンセラーコース限定必修（事前確定科目）1回生は「遺伝カウンセリング実習1」、2回生は「遺伝カウンセリング実習2」

【成績評価の方法・観点及び達成度】

実習への積極的な参加などを総合的に評価する

【教科書】

実際のクライアントに接した経験ほど重要な資源はない。

【参考書等】

（参考書）

【授業外学習（予習・復習）等】

（その他（オフィスアワー等））

クライアントのいかなる情報についても守秘を徹底すること。遺伝カウンセリング内容についての会話は、部外者のいるところではしないこと、内容を記したノート類は、部外者の目にふれないようにすること。ノートの貸し借りは禁止。守秘できない場合は、退学処分とする。

【平成27年度の必須参加予定】

「遺伝カウンセリング実習1」に同じ
経費補助を受けて学会・セミナー等へ参加した場合は、レポートを提出すること。レポートはA4用紙で参加日数枚数分を目安とし、速やかに提出すること(最大1ヶ月以内)。また、これらのレポートについては、報告書として冊子化されることがあることを了解すること。2回生は*のいずれかの学会で一度は研究発表をおこなうことが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。